

平成22年4月21日

西宮市社会福祉協議会
山口支部北六甲台分区
分区長 生田 收



さくらまつの視点から

さくらまつり事務局

岡
牧
生



今年で十三回目となる「さくらまつり（前身は山口フリマ）」は、伝統的な枠組みにとらわれない「新しい地域まつり・新旧住民の交流の場」の発想から生まれました。

※一般論として次のようなことが言われる。

が言われる。

■旧来の伝統的な村型・タテ型社
会（枠組み重視）

【短所】個人では動かない。周りを
気にする。出る杭は打つ。

【長所】集団を組むと驚異的なパ
ワーを発揮する。勿論しがり。

■新住民「旧来の枠組みにはまらない。自由(自分勝手)な社会」

【短所】集団で組織的に拘束される行動が苦手

【長所】しばらくられる固定観念（地域のしほり）がない。面白いと思えば即実行できる。少人数の仲良しグループを作って思わぬパワーを発揮する。



地域フォーラム

地域団体と住民で、子どもの育成支援の話し合い

分區長生田收



三月二十八日(日)、社協主催の地域フォーラムを開催しました。残念ながら三十数名の参加でした。企画等の弱さを反省するとともに、住民参加の難しさを痛感しました。とはいえ、地域の皆さんのさまざまな出会いの場づくりの大切さは申すまでもありません。

今回は、子どもに視点を置いて行いました。学校・家庭・地域社会の三者の連携が不可欠です。犯罪の低年齢化、いじめ、不登校、子どもへの虐待等々さまざまな問題が、しばしば報道されています。こうした背景には、核家族化、少子化、情報過多などに加えて、地域における地縁的なつながりの希薄化、個人主義の浸透などさまざまなき要因が考えられます。

地域の各団体のご協力を得て、住民の皆さんとともに、子どもたちの豊かな成長を願い、地域のきずなを高めたく、テーマを「地域の子どもたちを地域で支え育んでいこう」としました。

はじめに、青少年愛護協議会、スポーツ
21北六甲台の代表の方より地域の子ども

新しいまつりのコンセプト

このような特徴が合体・融合すると、思わぬ大きなパワーが生まれるのではないか。

◆そこには、伝統的なまつりでも
 そうであるように「若者組」の存在
 が欠かせない。その部分は、新旧住
 民子弟が合体している山口中学生
 に担ってもらうことにする。中学
 生が地域活動に入っていくことで、
 その親世代にも地域のことが伝わ
 るという効果がある。

◆息長く続けるために、あえて公的な助成金には頼らない。はじめから予算がある場合と予算ゼロ（必要経費は自分たちで稼ぐ）とは、知恵の出し方が違うものだ。

このようにして、第一回の来場者五百人から始まった「まつり」は今では三千人を超える「地域まつり」に発展しています。

たちと共に活動されている様子の一旦を、発表して頂きました。あいさつ運動をはじめ、子どもとの関わりの中で、成長していく様子をエピソードを交えて話されました。

その後、短時間でしたが、五つのグループに分かれて話し合いました。各組織連携の大切さ、文化芸術面の活動の場の大切さ、若い方の参加等々の意見がありました。

またこの四月より発足しました北六甲台小学校教育連携協議会より会の説明がありました。「共に育てる」という共通理解のもと、相互の連携・協力を図りながら、家庭・地域と共に歩む学校づくりを推進するための組織です。学校・PTAはじめ地域の諸団体がメンバーとなっており、教育に関する情報発信や啓発活動を行っていきます。学校・子どもを、地域社会あげて支援していく試みを皆で考えていきたいものです。

社会協会で、子どもたちの居場所づくりや福祉教育等において支援活動に努めたいと存じます。ご理解に更に努めねばと感じたひと時でした。

分区のさくらまつりの取組み

ボランティアセンター 古南 圭子

4月3日（土）、有馬川沿いの緑道公園にて第9回さくらまつりが開催されました。朝9時からテント張りや出店準備のため、多数のボランティアさんが集合されていました。例年の場所にテントを張り、早々に机と椅子を並べ、開店時間を待ちわびる姿が見られ、予定より早く開店する運びとなりました。

北六甲台分区が担当する喫茶の店は、プロ顔負けの本格的な香りを漂わせ、訪れた多くの人たちの足を止めていました。パスタの店は、腕に自信あり！の名コックさんが集まり、食欲をそそるおいしいソースの匂いで早々と売り切れになりました。また、去年は子ども広場（ともだちつくろ）で紙芝居の読み聞かせをしていましたが、今年初めてスーパーボールすくいをしました。小さな子どもさんから小学校高学年の子どもさんまで楽しんで参加してくれました。一つでも多くすくおうと目を輝かせて挑戦するほほえましい姿がたくさん見られました。

お天気にも恵まれ、桜を愛でながらそぞろ歩く人々の数は昨年以上だったと思われます。すれ違いながら交わされる挨拶も年々活発になり、桜まつりが地域の人々の楽しみとふれあいの場として定着しつつあることを感じました。

閉店時間になり、後片付けもボランティアさんの協力を得て、手際よく進められたので、昨年よりも早く終わることができました。

多くのボランティアさんのご協力にあらためて感謝します。ありがとうございました。



三月二十六日（金）、北六甲台分区の定例活動である研修バスツアーが開催されました。四十五名の方が参加され、有意義で楽しい一日となりました。

午前中は三木市内の兵庫県広域防災センターでの研修でした。

広域防災センターで避難体験 研修部

はじめに担当者からセンター全体の概要説明やプロジェクトによる施設や機能の具体的な紹介、地震・津波・火災などの災害史、防災・減災の知識や対策などを学びました。これについてある参加者は、「ちょっとした不注意からストーブの上の燃えやすい物が落ち、火災になってしまう実験は大きな教訓になりました。近年、老人施設での火災で多くの人が亡くなっています、自分も気を付けなければいけないと思いました」とおっしゃっていました。

次は、暗闇の部屋で、煙の中を避難する体験学習でした。暗い中を手探りで壁や手摺を頼りに避難することの不安と大変さを学びました。

続いて防災力向上のための屋外訓練設備を見学しました。車両事故訓練用の電車、ビル火災訓練用の建物、ヘリポートなどです。これについても「災害時にヘリコプター二十三機で救援物資を配送

驚きました。規模が大きいなあ！」との声を聞きました。

最後に、食糧、毛布、テント、仮設トイレ、救援機材などの災害時の救援物資が陸上競技場客席の下の倉庫に備蓄されているのを見学しました。

何人かの人から「この防災センターのことはテレビで見ていたので、一度見学したいと思っていました。今回参加できて良かったです」との言葉を受けました。

午後は、丹波の小京都といわれる篠山の町を散策しました。篠山城大書院を中心に、周囲に広がる歴史美術館、武家屋敷、青山歴史村、能楽資料館、丹波古陶館、ほろ酔い城下蔵、大正ロマン館などを個々に選択し自由を楽しみました。「篠山市は、歴史を大切にする町づくりをして、良い所ですね」と話される方がおられました。

参加者の皆様、ご協力ありがとうございました。

